

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本駒込 2-1-23
園名	アスク本駒込保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「世界」～国旗～

<テーマの設定理由>

- ・給食で提供される「郷土料理」を通して、日本食や他の国の料理にも興味をもっている。
- ・世界には日本だけでなく、他にもたくさんの国があることに興味を持っている。
- ・幼児クラスに中国籍の園児が5名在籍しており、外国の言葉や文化にも興味をもっているため。
- ・探究活動を通して、どの国にも独立した文化があり、国旗ひとつをとつても意味があることを楽しみながら習得できると思う。
- ・世界に目を向けることで、今後の視野の拡大に期待できる。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月～12月:世界地図を用い日本の位置を確認。日本とアメリカの国旗と国にちなんだものをフラッシュカードで異なる文化に触れる。自分の名前と好きな色を講師に教わり自己紹介をする。

1月:様々な国旗に触れる。好きな色を組み合わせる国旗の塗り絵をする。

2月～3月:国旗のデザインを選び好きな色を塗る。デザインを考えてオリジナルの旗を作る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・国旗絵本・・・日頃から子ども達が自分で国旗を見たり、気になる国旗の国名を調べるために使用。
- ・国旗一覧・・・国旗を見比べて違いに気付いたり感じたりするために使用。
- ・ABC えほん、世界地図絵本、せかい図鑑、せかいのりより図鑑…世界の国々の文化にも興味が広げられる様、自由に手に取れるようにする。
- ・絵入りひらがな地球儀・・・様々な国の場所や日本との位置関係、国土の形に興味を持ち、調べたり国旗のイメージを膨らませるために使用
- ・国旗の塗り絵・・・国旗に使われている色や形により細かく気付いたり、自分なりに感じた事・考えたものを表現するために使用。

4. 探究活動の実践

問いを考える：国旗という枠組みにとらわれず、日本とアメリカを題材にどんな食べ物があるかな？どんなスポーツがあるかな？と文化に関する問いかけをし、国による違いをみんなで考えた。また、国旗について探究を深め、どんな色や形が使われているかな？自分のクラスの国旗を作るとしたらどんな色やどんな形や絵にしようかな？と問いを重ね、身の回りの色はどんな色があるか、英語を用いて探したり子どもたちの興味に合わせた問いかけをした。

探究活動の様子：日本とアメリカにちなんだスポーツや食べ物のフラッシュカードを見て文化の違いに触れた。グループ毎に自分が知っている国を教えあった。講師に自分の好きな色の英語表現を教わり自己紹介で発音した。自信が持てず躊躇する姿があったが、友だち発表は興味をもって聞いていた。アメリカの国旗の塗り絵を用い好きな色を組み合わせさせて色塗りをした。グループ毎に見せあがり色の英語表現を発音する姿があった

。国旗図鑑やせかい図鑑、絵入りひらがな地球儀を見て「パンダがいるのはどこ？」とその国に生息する動物にも興味を持った。クラスの旗を製作した。グループ毎に話をして描きたい絵を伝え合った。順番に一枚の旗に好きな恵を描き仕上げた。

ふりかえり（保育士の気づき）：国や国旗の概念や英語での国名、色の表現が理解しなくてもカラフルな国旗や国にちなんだものをイラストで見られ、知っているものもあり、楽しみながら取り組んでいる。塗り絵の時はあえて見本を示さず、自由な色の組み合わせを促せた。子どもが楽しみながらクラスの旗のデザインを考えて取り組むことができた。

【4歳児実施分】

問いを考える：国旗という枠組みにとらわれず、日本とアメリカを題材にどんな食べ物があるかな？どんなスポーツがあるかな？と文化に関する問いかけをし、国による違いをみんなで考えた。また、国旗について探究を深め、どんな色や形が使われているかな？自分のクラスの国旗を作るとしたらどんな色やどんな形や絵にしようかな？と問いを重ね、身の回りの色はどんな色があるか、英語を用いて探したり子どもたちの興味に合わせた問いかけをした。

探究活動の様子：日本とアメリカにちなんだスポーツや食べ物のフラッシュカードを見て文化の違いに触れた。グループ毎に自分が知っている国を教えあった。講師に自分の好きな色の英語表現を教わり自己紹介で発音した。アメリカの国旗の塗り絵を用い好きな色を組み合わせて色塗りをした。グループ毎に見せあがり色の英語表現を発音する姿があった。

共同で旗を製作。テーマがなく、デザインを自分で考えることは難しかったようで、すぐに描き始められない子どもが多かったが、カナダの国旗のデザインをヒントに、中央に大きなマークを決めて描き、周囲を描いていく姿が見られた。

地球儀、せかい図鑑、せかいの料理図鑑を用い、その国の有名なものを1つ選び、1人1枚の国旗を製作した。子どもたちが互いに見せ合い、カラフルさや絵を褒め合う姿があった。

ふりかえり（保育士の気づき）：クラスの旗を製作する際、テーマを作らず自由にデザインを考える事の難しさがあった。事前に、様々な国旗のデザインに注目して、好きなマークを探しても良かった。

旗作りの経験を重ねたことで、地球儀や図鑑を用い、子どもがイメージを膨らませるきっかけ作りが保育士に分かり、すぐに取り組む姿が見られた。

【5歳児実施分】

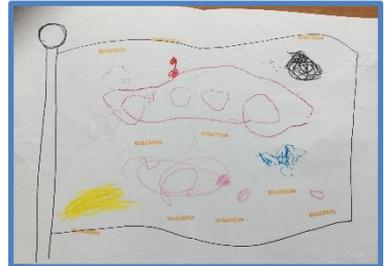
問いを考える：国旗という枠組みにとらわれず、日本とアメリカを題材にどんな食べ物があるかな？どんなスポーツがあるかな？と文化に関する問いかけをし、国による違いをみんなで考えた。また、国旗について探究を深め、どんな色や形が使われているかな？自分のクラスの国旗を作るとしたらどんな色やどんな形や絵にしようかな？と問いを重ね、身の回りの色はどんな色があるか、英語を用いて探したり子どもたちの興味に合わせた問いかけをした。

探究活動の様子：日本とアメリカにちなんだスポーツや食べ物のフラッシュカードを見て文化の違いに触れた。グループ毎に自分が知っている国を教えあった。講師に自分の好きな色の英語表現を教わり自己紹介で発音した。アメリカの国旗の塗り絵を用い好きな色を組み合わせさせて色塗りをした。グループ毎に見せあつり色の英語表現を発音する姿があった。

子どもそれぞれが、好きな動物や国旗のデザインを取り入れたり、テーマを考えて旗を製作した。This is my flag〜と皆に紹介した。

グループ毎に旗のデザインを考えて製作して、クラスで発表した。「ここは〇〇が描いたんだ」と伝えていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：国旗を身近に感じ、楽しみながら探究活動ができた。楽しみながら自由な発想で国旗のデザインを考え、製作できた。話し合いのヒントを伝えるだけで、子どもたちだけで話し合いを進められていた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本駒込 2-1-23
園名	アスク本駒込保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「音」～音の鳴る仕組みを考えよう～

<テーマの設定理由>

・縦割り保育で交流する中、音に関する興味が深い様子がみられたため。以前オノマトペについて音楽講師が伝えた際に反応がよく、音と単語の結びつきについて探究ができると考えたため。園内の楽器（スズ、カスタネット、タンバリンなど）を使ってリズム遊びをする機会や発表する活動に子どもの関心が高いため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

11～12月：音楽絵本を鑑賞し、オノマトペとは何かを知る。イラストカードや童話の中に出てくるオノオノマトペから感じる音のイメージを発言し合う。

1月：身近なものでオノマトペを表現できる方法を探して試す。

2～3月：他者と発表（演奏）しあい素材や扱い方の違いによる音の違いを知る。一人ひとりそれぞれの感じ方や表現の仕方の違いを共感しあう。さまざまな楽器の音の出る仕組みに興味を持ち、さらなる探究を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・絵本「がちゃがちゃどんどん」…オノマトペを知る。読み聞かせを通して、イメージ出来るようにする。
- ・楽器の仲間カード、楽器シール…音の鳴る仕組みによって、膜鳴楽器、体鳴楽器、弦鳴楽器、気鳴楽器の4つに分類出来ることを知る。
- ・楽器（フレームドラム、エナジーチャイム、リコーダー、アゴゴウッド、ウッドブロック、カスタネット、タンバリン、トライアングル、スズ、スネアドラム、ミュージックポンプ）…扱い方を知り、それぞれの音の鳴る仕組みを考える。
- ・廃材（空き箱、牛乳パック、発泡スチロールの食品トレー、プラカップ、ペットボトル）日用品（輪ゴム、割り箸、のり、テープ、鉛筆）その他（どんぐり、ブロック、けん玉、仕掛け絵本）…音を想像したり、組み合わせで鳴らし方を考える。楽器を製作する。
- ・絵本「言葉図鑑たえのことば」「聞いて聞いて音と耳のはなし」…短いセンテンスに着目した絵本によって、イメージを広げて音やオノマトペに興味を繋げられるよう、子どもが自由に手に取れる共有スペースの絵本コーナーに用意する。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：「オノマトペって何？」と問いかけて身近な音に目を向け言葉での表現を考える。

「保育園にある音は？」「散歩の時にある音は？」と問いかけ、オノマトペビンゴカードを照らし合わせて考えた。「どんな鳴らし方をするとカエルの鳴き声に聴こえるかな？」と問いかけ、鳴らし方を考えて工夫するきっかけを作りペットボトルと割り箸で表現した。「どんな音がするかな？」「どうやったら鳴るかな？」と問いかけ、音を想像しながら身近な物を探し組み合わせて鳴らし自分で考えて試せるようにした。「エナジーチャイムの鉄の所を持ったらどんな音がするかな？」と問いかけ、正しい持ち方を考えて鳴らし音の比較をした。

探究活動の様子：オノマトペビンゴカードを用いて保育士共にグループ毎に見つけて伝えあった。子供と一緒に確認しながら、保育士がカードのイラストに鉛筆で丸印を書いた。「ヒューヒュー」「ビュービュー」「ゴー」等風の音を違う言葉で表現した。新聞紙を指で弾いたり、手で叩いたり、丸めて集め高い位置から落下させた「パサ」「シャカシャカ」グチャグチャ」「ドサツ」と表現した。エナジーチャイムの金属の部分を持って鳴らすと詰まった音が鳴り、「あれ」と首をかしげて鳴らし方を考え持ち方を変えて鳴らし比較した。タンバリンとどんぐりを組み合わせて鳴らし「ちょっと跳ねた」という気付きがあった。「ティッシュの箱はポンポンいうね」「どんぐりを入れてみよう」と子どもがアイデアを出し「コロコロ音がする」と気付きを話した。

廃材を使い楽器を製作する。プラカップとどんぐりでマラカス、ラップの芯とどんぐりでレインスティック、空き箱に幾つものどんぐりを貼りギロを製作した。楽器の仲間カード、楽器シールによって音の鳴り方で4つに分類出来ることと保育士がヒントを伝えグループ毎に製作した楽器の仲間を考えた。全て体鳴楽器という答えに辿り着いた。

ふりかえり（保育士の気づき）：日常にあるオノマトペに注目し興味を持つことで「音」を身近に感じられ導入として良かった。保育室にある物や素材を子どもが自由に選ぶことで、どんな音が鳴るのか想像したり興味をもち自発的な探究に繋がった。身近な物の音の鳴り方や振動と音の関係に気付くことが出来た。体鳴楽器という分類用語は難しいが実際に楽器に触れたり種類の仲間集めの体験を通して、理解に繋がり、今後の探究活動や気付き、発見へ広がると感じた。

【4歳児実施分】

問いを考える：「オノマトペって何？」と問いかけて身近な音に目を向け言葉での表現を考える。

「保育園にある音は？」「散歩の時にある音は？」と問いかけ、グループ毎にオノマトペビンゴカードを照らし合わせて考えた。ビンゴカードに空白があり、子どもが絵を描きこめるようになっており「この絵はどんな音がするの？」と問いかけ、絵や音について子どもが話すきっかけを作った。

「どんな鳴らし方をするとカエルの鳴き声に聴こえるかな？」と問いかけ、鳴らし方を考えて工夫するきっかけを作りペットボトルと割り箸で表現した。「どんな音がするかな？」「どうやったら鳴るかな？」と問いかけ、音を想像しながら身近な物を探し組み合わせたりして鳴らし、自分で考えて試せるようにした。

「エナジーチャイムの鉄の所を持ったらどんな音がするかな？」と問いかけ、正しい持ち方を考えて鳴らし音の比較をした。

「クラスみんなで1つ楽器を製作するには？」と問いかけ、製作の進め方を考える機会を作った。

探究活動の様子：オノマトペビンゴカードを用いて保育士共にグループ毎に見つけて伝えあった。「ヒューヒュー」「ビュービュー」「ゴー」等風の音を違う言葉で表表現した。新聞紙を指で弾いたり、手で叩いたり、丸めて集め高い位置から落下させた「パサ」「ササササ」「グシャグシャ」「ドサツ」と表現した。エナジーチャイムの金属の部分を持って鳴らすと詰まった音が鳴り、鳴らし方を考え持ち方を変えて鳴らし比較した。楽器の仲間カード、楽器シールによって音の鳴り方で4つに分類出来ることと保育士がヒントを伝えグループ毎に製作した楽器の仲間を考えた。

クラスみんなで4種類の鳴り方をする楽器を製作した。一か所に全員が集まると話を進める役が決まらない事とやりづらさを感じたようで子どもたちが考えて4つのグループに分かれ、パーツごとに作り製作して合体させるアイデアを生み出した。製作に夢中になり鳴り方の種類が重ならない様に他のグループの様子を気かけながら取り組んだ。合体させてマスキングテープなどでカラフルに仕上げ5本の笛を含む楽器を完成させ満足そうだった。

ふりかえり（保育士の気づき）：様々な廃材を自由に使うことで、複数の物を組み合わせたり鳴らし方や音の違いに気付くことが出来た。様々な音の鳴り方を継続的に探究したり、楽器製作に向け4種類の音の鳴る仕組みを知ったことで、イメージを膨らませながら探究活動が進められた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：「オノマトペって何？」と問いかけて身近な音に目を向け言葉での表現を考える。

「保育園にある音は？」「散歩の時にある音は？」と問いかけ、オノマトペビンゴカードを照らし合わせて考えた。ビンゴカードに空白があり、子どもが絵を描きこめるようになっており「この絵はどんな音がするの？」と問いかけ、絵や音について子どもが話すきっかけを作った。「どんな鳴らし方をするとカエルの鳴き声に聴こえるかな？」と問いかけ、鳴らし方を考えて工夫するきっかけを作りペットボトルと割り箸で表現した。「どんな音がするかな？」「どうやったら鳴るかな？」と問いかけ、音を想像しながら身近な物を探し組み合わせて鳴らし自分で考えて試せるようにした。「エナジーチャイムの鉄の所を持ったらどんな音がするかな？」と問いかけ、正しい持ち方を考えて鳴らし音の比較をした。「音が鳴るものを探そう。鳴らし方は？」「いいやり方は見つかった？」と問いかけ身近な物の中から自由に探し試せるようにした。

探究活動の様子：ひとりに 3 種類のオノマトペビンゴカードを用いてグループ毎に話したり見せ合いながら取り組んだ。空白に描いた絵の意味やイメージする音を聞いたり伝えあう姿が見られた。自分のイメージを聞いてもらったり、絵を褒められて嬉しそうだった。「ヒューヒュー」「ビュービュー」「ゴーゴー」等風の音を違う言葉で表現した。新聞紙を指で弾いたり、手で叩いたり、丸めて集め高い位置から落下させた「パサ」「ササササ」「シャカシャカ」「クシャクシャ」「ドサツ」と表現した。エナジーチャイムの金属の部分を持って鳴らすと詰まった音が鳴り、鳴らし方を考え持ち方を変えて鳴らし比較した。エナジーチャイムとタイコを使い音が鳴る仕組みを知る。震えることによって音が鳴る振動について楽器を実際に鳴らして探究した。楽器の仲間カード、楽器シールによって音の鳴り方で4つに分類出来る事と、楽器がどの仲間に入るかを考えた。廃材を自由に選び組み合わせて楽器を製作した。「このパックにする」「カップも使う」と言い、素材から楽器をイメージしたり、イメージする素材を探し、思い思いに楽しみながらグループ毎に見せ合ったり自ら試行錯誤して楽器製作に取り組んだ。グループ毎に製作した楽器をピアノに合わせて演奏した。カスタネットやタンバリン等の好きな楽器も使う時間を作り、演奏を楽しんだ。

ふりかえり（保育士の気づき）：子どもたちが楽しみながら取り組んでおり良かった。廃材を使った製作は普段からしていることもあり自由にイメージを膨らませていた。卒園式で歌う曲はリズムをよく分かっておりその曲に合わせて楽器の演奏を楽しむことが出来た。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本駒込 2-1-23
園名	アスク本駒込保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ボール」～ボールって何?～

<テーマの設定理由>

- ・都会の真ん中ではあるが、週に1度運動場を利用してのびのびとボール遊びが出来る。
- ・地域にフェンスで囲われた公園が複数あり、ボール遊びに適した環境に恵まれている。
- ・乳児クラスから親しんでいるボール遊びを通じ、様々なボールを用意したうえ、ボールの素材や形に関心を持ち、所感を通して考え、探求心を深めたい。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致しボールの投げ方うあ扱い方を体操講師に教わる機会を創出することで、安全にボールを使った探究活動ができるようにした。

11～12月：様々なボールの大きさ、素材、感触、使用感を自由に試しながら的当てをする。好きなボールを見つけて理由を発表する。

1月：好きなボールでゲームをする。的当て、シュートゲーム、転がしドッジボール、他児の好きなボールにも興味を持ち試す。

2～3月：ボールの形に注目する。空気を抜いたボールの感触や弾力を感じて比べる。丸い形にとらわれず、ボールを製作する。ボールを使ってゲームや探求活動をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・サッカーボール、大きさの違うゴムボール…触れる、転がす、投げる、蹴る等を通して、好きなボールを見つける。
- ・運動用マット、大、小、ネット、カラーコーン、的のイラストプレート、長縄…ゲームに使用する。
- ・衝撃材、風船、新聞紙、テープ類、廃材(牛乳パック、ラップの芯)、色紙、藁半紙…ボールの製作に使用する。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：どんなボールがあるかな？触った感じはどうかな？好きなボールはどれかな？どんなところが好き？と問いかけ空気を抜いたボールを使い、どんなふうに転がる？弾む？と問い、予想する。投げたり、転がしたり、蹴る等して、探求し、理由を考える。この2つのボールはどんなところが違う？と問いかけ、ボールを比較して考える。製作したボールを使い「転がしたときの違いはあるかな？」と問い、探求する。

探究活動の様子：好きな色や大きさを基準にボールを選んだ。的当てで投げる、転がす、蹴る、探究活動の中で、友だちの選んだボールも気にかけて選択肢が広がっていた。グループ毎に、好きなボールについて話し、共有した。

ピンクのボールは柔らかいけど、黄色のボールは硬い。と違いに気付いた。柔らかく軽いピンクのボールについて、ピンクの方がポーンってなった。と高く弾んだことに気付いた。空気を抜いたボールを使う。「ゴロンゴロンって変な方に転がった。」と言った。

保育士が援助をしながら、グループ毎に3種類のボールを製作し、転がり方の違いを探求する。

- ①「ポンポン跳ねて、途中で止まったね」（風船にテープを巻く）
- ②「大きい、真っすぐ行った」（風船に緩衝材を巻く）
- ③「重い、長く行ったね」（テープをまるめて、緩衝材を巻く）

ふりかえり（保育士の気づき）：ボールの面積が大きいほど、的に当てやすいことや、サッカーボールは重さがあるので、速く真っすぐ安定して転がせることに気付けた。

子ども自ら、複数のボールを使い、どれが一番弾むのか興味を持ち、探求する姿があった。

同じ素材でも、製作方法を変え、各々のボールの違いを様々な面から調べることができた。

【4歳児実施分】

問いを考える：どんなボールがあるかな？触った感じはどうかな？好きなボールはどれかな？どんなところが好き？と問いかけ空気を抜いたボールを使い、どんなふうに転がる？弾む？と問い、予想する。投げたり、転がしたり、蹴る等して、探求し、理由を考える。1番長く転がせる（真っすぐ）ボールはどれかな？と問いかけ探求する。

探究活動の様子：好きな色や大きさを基準にボールを選んだ。好きなボールについて「重いから」と話し、重さの違いに気付いた。空気を抜いたボールを使用して「空気が無くなると、力が無くなる」「跳ねる音のポンポンが早くなる」「まっすぐ転がらない」ことに気付いた。ぐにゃっとボールが変形しているため、まっすぐ転がらず、曲がると考えた。サイコロ型のボールは「ドスンドスン」と音がするだろうと考えた。1人1個ずつボールを製作し、材料や気に入っているところを発表した。グループ毎に交換して、友だちが製作したボールに触れて、感想を言ったり、自分との共通点や違いを伝え合った。製作したボールを変えながらゲームを楽しみ、転がり方の違いに気付いた。

ふりかえり（保育士の気づき）：ボールは空気の量により、弾み方や転がり方が変化することを学んだ。素材の厚みや硬さ、柔らかさの違いだけでスピードが変わるのではないと知った。

【5歳児実施分】

問いを考える：どんなボールがあるかな？触った感じはどうかな？好きなボールはどれかな？どんなところが好き？と問いかけ空気を抜いたボールを使い、どんなふうに転がる？弾む？と問い、予想する。投げたり、転がしたり、蹴る等して、探求し、理由を考える。転がしやすいボールの大きさは？手で打つ時に使いやすいボールは？投げ方は？転がし方は？蹴り方は？と問いかけ、目的に合ったボールと扱い方を考えた。

探究活動の様子：積極的にボールを変え、探究活動の後、ボールを決めていた。転がして当てるのは、的が大きいから、小さいボールが良いのでは？ボールが大きい方が当たりやすいのでは？重い法が当たりやすいのでは？手で打つのはボールが大きい方がやりやすいのでは？と予想を立て、自分なりの意見を持って実践した。大きいから当てやすい、軽くて持ちやすい、小さくて軽いから投げやすい、大きいとよけづらかった、小さいとジャンプでよけやすかった、等、転がしドッチボールでの探究を楽しんだ。

グループ毎のボール製作では、どんなボールを作るか、材料選びや作業分担など声を掛け合い、積極的に取り組んだ。製作した3個のボールを変えながら転がしドッチボールに使い、違いを探求した。

ふりかえり（保育士の気づき）：転がしドッチボールに使いやすいボールの理由を自分なりに考えて、説明して、ボールを選び発表できた。ボールについて、予想と体験を踏まえて自分で考え、答えを出せていた。転がしドッチボールは、子どもたちが好きな遊びなので、そのためのボールの探求は、イメージしやすく、楽しく取り組めた。個人ではなく、グループでボールを製作することは、初めてだったが、しっかり話をして、作り上げることができた。

